

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年5月12日(日)

活動隊員:藤田 さやか

1. 活動期間

2024年5月7日(火) 9時 ~ 2024年5月9日(木) 14時

2. 活動場所

避難所: 珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

仮設住宅: 正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

仮設住宅入居説明会: 珠洲市立珠正院小中学校体育館(石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況(5月8日 14:00時点 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:7,220棟 非住家被害:5,991棟

通水率 56%(うち、3分の1が水道使用可)

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 5月8日:21人

宝立小中学校 5月8日:57人

【避難所運営及び生活状況】

1) 大谷小中学校 訪問日時:5月8日(水)8:00頃

外部常駐支援終了後、避難所利用者で役割分担し、自主運営されている。2次避難先からの帰還は当面予定されておらず、避難所の避難者数の大幅な増減はない。依然上下水道は復旧していない。日中の避難所には数名のみの滞在である。弁当配給が14日まで予定されており、自宅避難者も併せて26名が利用している。

2) 宝立小中学校 訪問日時:5月8日(水)13:00頃

本部長より情報収集をし、避難所内を巡回した。運営体制は大きな変化はなく、ボランティアやキッチンカーによる炊き出し、整体師によるマッサージなどが行われていた。訪問した平日の午後に居室スペースに残っているのは高齢世帯が多く、ほとんど午睡されている状況であった。弁当は自宅避難者も併せて120名分という記録があった。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第1団地:正院小中学校グラウンド76戸】訪問日:5月7日(水)、8日(木)、9日(金)

住居間の砂利道は、高齢者には歩きづらく転倒の危険があったが、舗装が完了していた。集会所でのお茶会は、火・木・金で開催し、それ以外の支援者や地区長会によるイベントが開催されている。活動期間

中には、棚づくりのイベントがあり、集会所の靴箱が新たに設置された。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド153戸】訪問日：5月8日（木）

各棟の玄関が全て北向きに設置され、A～C棟はスロープが設置されている。玄関は2重にドアが付けられ、ドアとドアの間のスペースを物置として使用されている世帯が見受けられた。団地内の集会所は公民館職員により管理されることとなり、イベントは公民館費での予算化を検討されていた。

【正院町第2団地】

5月7日に入居説明会を実施し、8日から入居開始となった。みなし仮設や市外の知人・親戚宅での生活を開始しているために、6月以降の入居を予定している世帯も認めた。入居説明会時のスクリーニングにより、健康・経済・生活面での不安がある世帯は要フォローとして、初回巡回訪問の日程調整をした。住宅には、食器や調理用具一式、寝具・冷蔵庫・洗濯機が企業や県からの補助で支給され、PWJからその他の家電の提供支援も希望により行われる予定である。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：大谷小中学校】8日8:00、9日8:00

訪問時、本部長より気になるケース2件について相談を受け、体育館内を巡回した。1件は発災当初から入所している高齢独居男性で、清潔ケアの配慮が必要な方である。気温が上昇してきて、臭気が増強し、周囲からクレームが来ている。定期的な着替えやりハビリパンツの使用など勧めてほしいと依頼があった。血圧測定をしながら本人とお話ししたところ、定期的な入浴や着替えの回数を増やすことは難しいとのこと。洗濯は親戚の方が週に1回してくれている。自尊心を傷つけないようなアプローチが必要であり、次隊に申し送るとともに健康増進課に情報共有した。2件目は被災後に母親の認知症が進行しているケースで、お話ししたところ息子の鬱状態が懸念されるため、健康増進課を通して精神保健福祉士協会の巡回派遣に繋げた。

2月からフォローをしている自宅避難者について、健康増進課からも要フォローとして情報共有があり、訪問した。自宅は半壊で地下水、プロパンガスが使用可能である。電気も2月時点で開通していた。住家の状況は変化なく、弁当配布が14日に終了するため、それ以降の食事については困難になる様子。週に1回は市役所付近に買い物に出るようにしているが、地震後に不通となった自宅付近の道路の開通工事を希望している。

【仮設住宅支援：正院町第一団地】

要フォロー者訪問 9日（木）10:30 11:30

入居者のうち要フォロー者リストにある33世帯を訪問し、11世帯と面談できた。ほとんどが健康・生活面での不安は解消されていた。体調不良により新たに病院受診が必要となっているケースと、家族の引きこもりによりストレスが増強しているケースについて、健康増進課に申し送りし継続フォローを引き継いだ。

お茶会開催

開催場所：正院町第一団地

開催日時：5月7日（火）～9日（木）10:00～12:00

参加者数：5月7日（火）21名、5月8日（水）7人、5月9日（木）11人

5月7日（火）：外部ボランティアによる棚づくりのイベントが行われ、お茶会ではロールケーキづくりをした。ロールケーキは冷凍のスポンジとクリーム、缶詰のフルーツを準備し、各自でデコレ

ーションをして巻く作業をしていただいた。ボランティアからバナナとみかんの提供もあり、「楽しかった」という発言が見られた。H コンロで揚げ物ができないという相談が話題の中心であったが、電気店を営んでいた方から温度設定や鍋の選び方などレクチャーがあったため、悩みが解消した様子であった。完成した棚を見て、自分の居室にもちょっとした棚がほしい、というニーズも見られた。合間にはボランティアの整体師による整体と、筋膜リリースの体操が実施された。男性も含めた参加があり、とても活気があった。

5月8日(水):メンバーは女性のみで固定化しつつある。認知症の方の居室までの送迎と、お茶会で孤立しないようなサポートをした。血圧測定を全員にしたところ、普段測っていない方が160 170mmHg 台と高値であり、継続して測定していくこと、生活習慣の見直しを助言した。避難生活が開始してから、おかずの代わりに漬物を摂取する量が増えているとのことで、塩分過多が懸念される。11時ごろからは民生委員によるシルバー体操を実施。参加者全員で椅子の準備や片付けなど積極的に動かれる様子があった。本日の話題の中心は、発災時に自分や知人がどこで何をしていたか、現在の他の地域の状況についての情報交換であった。少し涙ぐまれる方はおられたが、参加者同士で声をかけ合い、受容に向けたプロセスに至っていることが伺われた。

5月9日(水):メンバーによるビーズアクセサリーの制作が披露された。参加者の好きな色でイヤリングまたは指輪をその場で制作されお渡しされていた。「こんなおしゃれしても仕方がない」と言いながらも、装飾され嬉しそうな表情が見られた。参加者同士の交流をサポートするとともに、生活の状況やニーズの把握、血圧測定を含む健康チェックを実施した。本日もシルバー体操が行われ、参加者は「楽しかった」と気分転換が図れた様子であった。

【仮設住宅支援：宝立第一団地】 要フォロー者訪問 8日(木) 17:30 18:30

要フォロー者リストにある8世帯のうち4世帯に面談ができた。ほとんどが生活面・健康面で問題はなかったが、ケースワーカー・訪問看護師のフォローがある高齢夫婦の世帯で、妻に希死念慮を認めため、健康増進課と情報共有し、福祉課を通じてケースワーカーに接触し、誰かが週に1回は訪問できるようにフォロー体制を構築していくこととなった。

7. 支援活動を通しての所感と課題

仮設住宅の入居が進む地区と、まだ見通しが立っていない地区がある。また、仮設住宅建設地が点在しており、集会所の設置がない集落もある。活動時点では、集会所の利用ルールが整備されておらず、被災前の地区制は残しながら、仮設住宅集落での代表者を選出している状況である。行政では仮設入居は2年間という期限を設定しているが、その間の各仮設集落の情報集約を含む、コミュニティ構築への支援ついて課題が残る。

今回の災害では、同一世帯の分離避難が特徴である。しかし、被災時点での世帯に対して住宅支援が行われているため、分離世帯の片方が住宅支援を受け、残った世帯が半壊の家に住み続け修繕もできないというケースが複数報告されている。現状では、保健師と連携して、残った世帯の健康・生活面での継続フォローをしていくことが求められる。



民生委員による健康体操



舗装が完了した仮設住宅



外部ボランティアによる棚づくり



ビーズ制作の様子